窒息するオフィス

仕事に強迫されるアメリカ人

ジル・A・フレイザー
森岡孝二 監訳

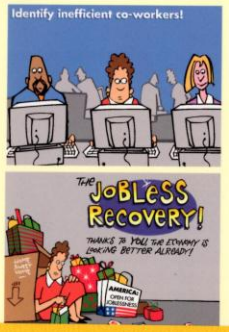
「もちろん、休みはとりますよ。昼休みという休みをね……」
「会社にソフトボールチームはありません。
あれば生産性が0.56％下がってしまうから……」！？

仕事がどこまでも追いかけてくる——こんな働き方はまともじゃない

岩波書店　　定価（本体2300円＋税）

窒息するオフィス
仕事に強迫されるアメリカ人
ジル・A・フレイザー
森岡孝二 監訳
岩波書店

9784000238175
ISBN4-00-023817-5
C0036 ¥2300E
1920036023004
定価（本体2300円＋税）



本書は2001年に出版されて大きな話題となったアメリカのホワイトカラーの過酷な働き方を描いた衝撃のレポートである。著者は、さまざまな大企業のなかで仕事に押し潰されている多数の男女に四年にわたりインタビューをしてきた。そして、M＆Aとレイオフが連動した株価至上主義の猛烈経営が、いかにアメリカのホワイトカラーをスウェットショップ（搾取工場）状態に追いやってきたかをリアルに描きだした。ここに語られているのは、IBM、AT&T、シティバンク、インテルなど、誰もが知っているアメリカの大企業の、日本ではよく知られていない近年の変貌の有様であり、そのオフィスで働く人々の悲痛なうめきと怒りである。

——「訳者あとがき」より

ジル・A・フレイザー
(Jill Andresky Fraser)

1956年生まれ。金融レポーターとして、『ニューヨーク・タイムズ』『ニューヨーク・オブザーバー』『フォーブズ』誌などのビジネス欄やファイナンス欄に執筆してきた。最近は『Inc.』誌のファイナンス担当の編集者や、『ブルームバーグ・パーソナル・ファイナンス』誌の寄稿編集者も務める。ニューヨーク市に夫と二人の子どもと住む。主な著書には、本書のほかに、個人事業主の金融問題を扱った近著、*The Business Owner's Guide to Personal Finance : When Your Business is Your Paycheck* (Bloomberg Press) などがある。

90年代に空前の好景気にわいていたアメリカ経済の足下で、いったい何が進行していたのか。膨大な時間を仕事に費やし、家族と過ごせる時間はごくわずか、精神的やすらぎからは程遠く、仕事と生活の不安は高まるばかり、職場で生き残るだけで精一杯の日々——。その姿は明日の私たち自身の姿なのか。グローバリゼーションと株価至上主義の向かう先の働き方は、こんなにきついものなのか？　対抗する手段はないのか。

全米で大きな話題を呼んだ「ホワイトカラー搾取工場」からの生々しい衝撃のレポート。

カバーイラスト
Copyright © 2002 by Mark Fiore
http://www.markfiore.com